

～ヨーロッパ最新情報～

ヨーロッパでは以下の国で日本からの入国規制が撤廃され、完全開国されています。
オーストリア、ベルギー、チェコ、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、イタリア、
アイルランド、ノルウェー、ポルトガル、スウェーデン、スイス、イギリス



日本の水際措置は以下の通り(7月21日付) ※引き続き、全ての国からの入国者に対して、出発国出国前72時間以内実施の陰性証明書の提出が求められます。

- ◆**青字**の国から日本への入国者/ワクチン接種歴有無に関わらず日本の到着空港での検査は免除され、入国後の自宅待機も求められません。
アイスランド、アイルランド、イタリア、英国、エストニア、オーストリア、オランダ、ギリシャ、クロアチア、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ベルギー、ポーランド、モナコ、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルグ等
- ◆**赤字**の国から日本への入国者/有効なワクチン接種証明を保持していれば日本の到着空港での検査は免除され、入国後の自宅待機も求められません。
有効なワクチン接種証明を保持していない人は入国時検査を実施した上で、5日間(7月29日より7日間から短縮)の自宅待機(入国後3日目以降に自主的に受けた検査の結果が陰性であれば、その後の待機不要)となります。**キプロス、ポルトガル、マルタ等**

なお、現地にて感染の疑いがある場合、陽性と診断された場合、及び濃厚接触者の定義は**右記**をご参照ください。**新型コロナウイルス感染症 現地対応マニュアル 2022年8月版**

情報提供:ミキ・ツーリスト

AUSTRIA (オーストリア)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

8月1日よりコロナ陽性者の隔離義務が撤廃され、一部の規制を除いて外出が可能になりました。ウィーン市内ではまだ公共交通機関でのマスク着用義務がありますが、その他の場所でマスク着用している人を見かけることは少なくなりました。コロナ以前の状況に、戻りつつあります。

日本からの入国情報	[8月1日時点] 完全開国 入国に対する規制・規制は撤廃され、陰性証明などの提示も不要となっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[8月1日時点] Grüner Pass(Green Pass)というアプリに接種証明、陰性証明等の情報 (SMSやEメール等で届くQRコード) を読み込ませます。アプリがなくても、接種証明書等を飲食店等でそのまま提示しても問題ありません。病院・介護施設で3G証明書提示を義務付ける以外は全て撤廃されました。
マスク着用義務	[8月1日時点] マスク着用義務は停止しています (現行では8月末まで)。※病院・老人ホームなどの医療施設での着用義務は継続。ウィーン州のみ、公共交通機関・薬局での着用義務の継続
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[8月1日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 契約検査機関により、検査結果は2時間から24時間以内に送付されます。第三者に結果を送信する場合、委任状が必要です (みゆのPCR検査の商品は、MIKIに結果を送ってもらってから、チェック後お客様にお送りしています)。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、6か月未満の観光目的の滞在はビザ不要。 ※他のシェンゲン協定加盟国を経由する場合は、当該国の規定を確認すること。

BELGIUM (ベルギー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

コロナ前の状態に戻っています。
7月21日の建国記念日を祝うパレードも予定通りに行われました。

日本からの入国情報	[7月28日時点] 完全開国 5月23日から、EU外からの必要不可欠ではない渡航の禁止は、解除されています。また1日目及び7日目の検査義務、10日間の検疫、渡航者位置特定フォーム(PLF)、ワクチン接種証明、回復証明または有効期限内の検査結果の提示義務もなくなりました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月28日時点] 5月23日からバロメーターによる規制が休止しており、必要ありません。
マスク着用義務	[7月28日時点] マスク着用義務は、病院、医務室（医師のいる場所）及び薬局を除き、あらゆる場所においてなくなりました。公共交通機関におけるマスク着用は義務ではありません。しかし、非常に多く人が行き交う場所または老人ホーム、歯科、理学療法所、心理療法所、言語療法所などのケアを行う環境においては、マスク着用が推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月28日時点] 手配可否：可、立て替え：基本は現地払い（現金）、検査結果：検査場受け取り 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 日本語で対応してくれ、グループの受け入れ可能な検査機関がありますが、支払いが現地払いのみとなります。立替払いを希望する場合、アシスタントを手配して、支払を委託することになります。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。

CZECH (チェコ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

学校が夏休みに入ったこともあり、平日週末関係なく行楽地ではどこも国内外の観光客が押し寄せています。アジアの観光客は国によって徐々に戻りつつありますが、特に韓国からの団体客、個人客を多く見るようになりました。日本人観光客を見かけることは殆どありません。7月は30℃を超える暑い日が多かったこともあり、一部アジアの観光客を除いてマスクをして歩いている人を見かけることは殆どなく、開放的な夏のバカンスを楽しんでいるようです。

日本からの入国情報

[7月27日時点] 完全開国

チェコに入国する全ての人の検疫等に関する制限は解除されています。すべての渡航者は、渡航前に入国フォームを記入する必要もなく、PCRテストの結果や新型コロナワクチンの接種証明書を携帯する必要もなくなりました。ただし日本からチェコへの直行便が無いため、経由する国や利用する航空会社が要求する場合には、それらの書類が必要となります。

DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況

[7月27日時点] 国内でDCCを提示するような機会はほぼなく、実質的には国外への旅行の際のみ、行き先によってワクチン接種を証明する必要があるときにのみ利用されています。

マスク着用義務

[7月27日時点] 国としてマスク着用の義務を規定していないが、病院や老人ホーム、社会福祉施設では入館時や患者と会う際のレスピレーターを着用を独自で規定するところも出てきています。また保健相も公共交通機関に乗車する際はレスピレーターによって口と鼻を覆うように強く推奨しています。

日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項

[7月27日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可
各国の規制解除によりPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少、対応の変更が予想されます。ご注意ください。
空港のPCR検査場は日本指定フォームに対応していますが、支払いは現地払いでかつ予約不可です。検査結果が出るのが採取から3~48時間が一般的。ただし、PCR検査の需要が減少しており、今後も検査場の閉鎖が懸念されます。またほとんどの検査場は日曜・祝日クローズです。

日本国籍の査証について

日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。
※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意する。



酷暑で出動する放水車



スーパームーンとカレル橋

DENMARK (デンマーク)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ヨーロッパ、アメリカなどからの観光客が戻っており、コロナ前の混雑に戻りつつあります。一般生活はコロナ前の状況と全く変わりません。

日本からの入国情報	[8月1日時点] 完全開国 デンマーク入国に関する制限・規制は全撤廃となりました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[8月1日時点] ワクチン接種1回目から約14日以降にオンラインにて「EU COVID-19 certificate」の取得が可能となります。なお規制は全て解除となっており、国内ではDCCの取得は不要となります。
マスク着用義務	[8月1日時点] 規制は全て解除となっておりますが、病院やケア施設への訪問時には引き続きマスク着用が求められることがあります。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[8月1日時点] 手配可能：可、立て替え：可、検査結果：検査場受取り 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 コペンハーゲンの空港内検査場は日本帰国用のフォーマットに対応しています。他都市でも日本帰国用フォーマットに対応していますが、申込・手続きが全てデジタル化されており、お客様自身がログインして個人情報を記入、検査当日のチェックイン、デジタル上での検査結果の確認が必要です。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。

FINLAND (フィンランド)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ヘルシンキにも国内外からの観光客が戻っています。
ヘルシンキにあるストックマン・デパートでも、観光客をターゲットとしたお土産物を含めたフィンランドテーマの展示販売エリアが設けられているそうです。

日本からの入国情報	[8月1日時点] 完全開国 7月1日にフィンランド入国規制が全廃されました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[8月1日時点] ワクチン接種から約5日以降にオンラインにて「EU COVID-19 certificate」取得可能。イベントでは、主催者が自主的にコロナパスの確認を行っていましたが、現在は規制解除しており国内では不要となります。
マスク着用義務	[8月1日時点] マスク着用推奨も解除となり、フィンエアー機内でのマスク着用義務も4月25日より解除となっています。(但し、渡航先・出発国の当局が要求する場合はマスク着用が必要になる場合もあり)
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[8月1日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メールにて受取り 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 ヘルシンキ市内・空港のプライベートクリニックで有料PCR検査を実施していますが、日本帰国用のフォーマットへの記入に関しては、(同系列であっても)それぞれのクリニックにより取扱いが異なる為、申込時、検査時にしっかりと確認が必要です。なお現時点では、基本各クリニックの予約時に支払いが必要となります。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。

FRANCE（フランス）



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

7月上旬に一時的に新規感染者が急増しましたが、7月末にはピークも越えて落ち着いてきました。感染者が増えても新しい規制が発生するわけではないため、日常生活は変わりありません。あいかわらず屋内外問わずマスク着用者はほとんどいません。欧州域内や米国からの観光客は増え続けており、観光施設やレストランの予約が取りにくい状況が続いています。これまでアジア人観光客は個人客だけでしたが、団体客も見かけるようになりました。

日本からの入国情報	[8月2日時点] 完全開国 新型コロナウイルスに対する特例措置は7/31をもって終了しました。これにより、ワクチン接種証明書や陰性証明書、dPLF（Digital Passenger Locator Form）が不要になり、通常通りパスポートと航空券のみで入国が可能となりました。
DCC（ワクチンパス） 取得方法・運用状況	[8月2日時点] 7月31日をもって、医療機関を含むすべての場所での衛生パス（passe sanitaire）の提示は不要となりました。
マスク着用義務	[7月25日時点] 屋外でのマスク着用義務は終了しました。病院などのワクチンパスまたは衛生パスの対象となる閉鎖された場所を除き、マスク着用は必須ではありません。（ただし多くの屋内施設では、マスク着用が推奨されています。）
日本帰国用PCR検査に関する 一般的な注意事項	[7月25日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：検査場受け取り 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 日曜・祝日は多くのラボが休みのため、手配不可となります。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。 他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。



革命記念日のルーブル美術館前

GERMANY (ドイツ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

現在、ノイシュバンシュタイン城の予約は10月15日までの訪問日までしか受け付けられていません。関係者によると10月16日以降の予約開始日は、いまだ未定との事です。コロナの感染者数が影響しているのかは不明ですが、感染者は増加傾向にはありませんので、早めの予約の再開を期待しています。

日本からの入国情報	[7月28日時点] 完全開国 6月11日から、入国理由を証明する資料が提示不要となり観光や知人訪問も可能となりました。加えて、日本を含む第三国からのドイツ入国に際して各種証明書（ワクチン接種証明書、陰性証明書、回復証明書）提示義務も撤廃されています（6月10日以前は、EU圏内の居住者等に限定されていましたがこの限定が解除されました）。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月28日時点] ワクチン接種証明書"CovPass"が運用されており、接種時ワクチン手帳 (Impfpass/Impfbuch)に必要情報が記載されます。手帳の提示により出入国やショッピング・飲食店利用時に証明書提示が免除となります。ドイツではそれに加え、デジタル証明の運用が開始され、専用アプリを介して取得が可能です。※発行は任意
マスク着用義務	[7月28日時点] 公共交通機関、医療機関や介護施設など特定の場所でのみ、医療マスク (FFP2、KN95/N95マスク) の着用義務が継続中です。違反すると最低50ユーロの反則金が課されます。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月28日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 グループ予約に対応している検査施設は、まだ少ない状況です。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意する。

GREECE (ギリシャ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

国内の報道では、いたるところで発生している山火事について連日報道されています。日本では夏場に急な雨が降ることもあると思いますが、ギリシャは毎日晴天が続いて乾燥する季節です。日中は体温よりも気温が高いため、涼むためにテラスではなく室内で食事を楽しむ人が多いようです。

日本からの入国情報	[8月2日時点] 完全開国 5月1日以降、ギリシャ国内線・国際線における COVID-19 関連の制限措置が解除されています。これに伴い、新型コロナウイルス関係の証明書（ワクチン接種証明書、治癒証明書及び陰性結果証明書）の提示は不要となっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[8月2日時点] ギリシャもDCCの運用が開始していますが、EU以外の第三国からの外国人は書面での提示でよいとされています。なお、レストラン（屋内）や博物館（屋内）入場時の提示義務は解除されました。（※ただし、一部例外（官民の非免疫者の従業員、緊急救命除く医療機関での付添人等）で、証明書の提示が求められる場合があります。）
マスク着用義務	[8月2日時点] <ul style="list-style-type: none">●鉄道、市内バス、トラム、タクシー、フェリー（デッキを除く）、地下鉄など・交通機関内（駅内等含む）ではマスク着用義務・二重マスク（サージカル及び布製）または高規格マスク（FFP2、N95）の着用義務●遺跡、博物館、飲食店での着用義務はないが、施設側の判断によって、感染対策が講じられる場合がある。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[8月2日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 12時間で結果が出る場合もありますが、結果判明までは24時間を見ておいてください。また英語が通じる病院も多いですが、念のためアシスタントを手配することをお勧めしています。他国と同様にPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。ご注意ください。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。

HUNGARY (ハンガリー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

ハンガリーではコロナ関連の規制が撤廃されており、レストラン、入場施設などスムーズに利用ができています。陰性証明を提示する機会も無いので、活動はコロナ以前に戻っています。ハンガリーでも新規感染者数は6月末頃から増えていますが、とくにマスク着用義務など何らかの規制の再導入といった動きはありません。

日本からの入国情報	[8月1日時点] 完全開国 入国規制が撤廃されています。入国時のPCR検査やワクチン接種証明書などの提出も不要です。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[8月1日時点] 3月7日より規制が撤廃されたため、ワクチン証明などを見せる必要がなくなりました。
マスク着用義務	[8月1日時点] マスク着用義務は撤廃されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[8月1日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 検査結果が出るまでに12～24時間見ておいてください。また今後PCR検査機関の減少が予想されます。ご注意ください。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。

ITALY (イタリア)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

1日当たりの新規感染者数は増加傾向にあります。そのため、屋外でのマスク着用は既に撤廃されていますが、ここ最近マスクを着用する人も見かけるようになりました。公共交通機関では基本全員がマスクを着用しています。とはいえ、アメリカやヨーロッパ域内からの観光客は増え続けていますので、各都市観光客で賑わいを見せており、レストランや入場箇所の予約も取りにくい状況が続いています。

日本からの入国情報	[7月25日時点] 完全開国 イタリア入国のためのCOVID-19グリーン証明書に係る保健省命令は期限切れとなり、関連措置は延長されない旨を発表しました。したがって、現在イタリア入国の際にCOVID-19グリーン証明書（ワクチン接種証明、治癒証明、陰性証明のいずれか一つ）又は同等の証明書提示は不要となっています（※日本から入国する場合も、ワクチン接種証明やPCR検査、抗原検査の陰性結果を提示することは不要です）。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月25日時点] グリーンパスの提示は殆どの場所で不要となりました。（老人ホームや病院では2022年12月31日までグリーンパスの提示が求められます。）
マスク着用義務	[7月25日時点] 劇場、映画館、催しの着用義務は撤廃されましたが、以下の場合は着用が義務付けられています。 ●交通機関の利用ではFFP2マスクが依然として義務。●医療施設、介護施設、ホスピス等の従事者、利用者、訪問者にはマスク着用が義務付けられる。●公共または一般に開かれた屋内の全ての場所でマスク着用が推奨される。 ※6歳未満の子供。マスクの着用に適さない疾患や障害を持つ者。また、障害者と意思疎通をする上でマスクの着用が不適当な者はマスク着用の義務はない。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月25日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 イタリア主要都市（ミラノ、ヴェニス、フィレンツェ、ローマ）にてクリニックと契約しています。検査可能な日時はクリニックにより異なりますが、いずれも日曜・祭日の検査は不可となります（土曜は時間が限られています）。検査結果は通常48時間で入手できますが、追加料金を払うことにより、当日受け取りが可能な場合もあります。最近では需要減少のため、PCR検査を行う検査機関が減少、または検査時間の短縮を行い始めています。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。

IRELAND (アイルランド)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

日本からの観光客が戻りつつあり、観光地では日本語のガイドブックを持った人の姿がチラホラ見かけます。
今年も、トリニティーサマーシリーズと呼ばれる屋外コンサートがトリニティーカレッジで開催され、地元っ子がダブリンの夏を楽しんでいました。

日本からの入国情報	[7月29日時点] 完全開国 入国に関わる制限は全て撤廃されています。到着時のワクチン接種証明、回復証明、PCRテスト陰性結果の提示、及び旅客所在確認フォーム(Passenger Locator Form)の記入が、全て不要となっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月29日時点] 国内における屋内のホスピタリティ・娯楽施設に関する規制は全て解除され、これらの施設に入場する際の、ワクチン接種証明書も不要となっています。
マスク着用義務	[7月29日時点] マスク着用の法的義務は解除されています。ただし公共交通機関や医療機関などでは、マスク着用が引き続き推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月29日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：ラボのリンクに入って、ご自身で確認を行って頂きます 各国の規制解除によりPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。それに伴って手配情報も変わる場合があります。ご注意ください。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、滞在期間、目的にかかわらず査証不要。

NETHERLAND (オランダ)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

バケーションの時期で、空港は相変わらず混雑が目立ちます。加えてスタッフ不足による、空港の混雑もしばらく続くと思われています。街はすっかりコロナ前の状態に戻っており、普段通りの生活が続いています。オランダ政府が温暖化対策の一環として農地を農家から買い上げる動きがあり、これに反対する農家が抗議を高速道路をトラクターが塞ぐ抗議活動が話題になっています。

日本からの入国情報	<p>[7月28日時点] ■ワクチン接種者：空路で入国する者の健康申告書の提示義務も廃止され、通常の入国審査となります。■ワクチン未接種者：EUの入国制限措置対象のため、滞在許可を持つ方や特定の職業など入国制限の例外となる者以外、入国できません。</p> <p>※ワクチン接種証明書は、オランダ等で発行されたEUデジタル証明書（DCC）か、基準を満たす証明書である必要があります。ワクチン接種証明書を提示する場合には、ワクチン接種に関する申告書を提示する必要があります。</p>
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	<p>[7月28日時点] コロナ・エントリー・パスが必要となる場所はありません。</p>
マスク着用義務	<p>[7月28日時点] 公共交通機関においてのマスク着用義務が撤廃されました。飛行機内とセキュリティーチェック以降の空港内においては、引き続きマスクの着用が義務付けられています。（13歳以上が対象。）違反者には95ユーロの罰金が課されます。</p>
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	<p>[6月28日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可</p> <p>需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。弊社が予約代行を行っている検査機関は、結果が早い上に比較的臨機応変な対応が可能です。しかし、今後は検査機関の減少も予想されますのでご注意ください。</p>
日本国籍の査証について	<p>日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。</p> <p>※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意する。</p>

NORWAY (ノルウェー)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

夏休みが始まったばかりの7月に、SASスカンジナビア航空パイロットのストライキが2週間続き、かなりの乗客が旅程変更や代替交通機関手配などの影響を受けましたが、現在はストライキが終了して平常に戻っています。ノルウェーでも観光業従事者の人員不足が深刻化しており、ホテルやレストランが人員不足の為、営業時間を短縮する所が出ています。毎年夏にオスロで開催されていた子供のサッカートーナメントNorway cup が7月31日～8月6日に3年ぶりに再開され、国内外併せて3万人が参加して賑わっています。

日本からの入国情報	[8月1日時点] 完全開国 全ての規制が解除となっています。原則、日本パスポート保持者への入国制限はありません。入国前登録、陰性証明、入国後の検査や自主隔離も不要です。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[8月1日時点] ワクチン接種後、オンラインにて取得可能。国内仕様とEU仕様の二種類ありますが、規制撤廃に伴い国内で使用することはありません。
マスク着用義務	[8月1日時点] 全ての規制が解除となっています。持病がある等の理由でマスクをしている人も稀に見られますが、大多数の市民はマスクなしで生活しています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[6月28日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：検査場受け取り需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。オスロは週末も対応するラボや短時間で結果が出るプランなどが比較的揃っていますが、PCRの需要が減っていることから状況は流動的です。ご注意ください。※アメリカの入国時コロナ陰性証明提示が撤廃された為、クリニックでのコロナ検査営業状況変更や検査所減少が加速すると予想されます。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。



グランドホテルオスロ



ブルーベリー摘み最盛期

PORTUGAL (ポルトガル)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

バカンスの時期となり、観光業界での人手不足が連日のように報道されています。特にフォーカスされているのは空港やホテル、レストラン、またそれらに関わる清掃業でパンデミック中解雇になった人達も、給与の低さを理由に、復職せずに失業保険を受け取る生活を選ぶ為、ベッドメイキングができず臨時休業せざるを得ないホテルや、スタッフ不足により営業中にも関わらず顧客の人数制限をせざるを得ないレストランなど、問題は深刻です。

日本からの入国情報	[7月30日時点] 完全開国 ポルトガル政府は、新型コロナウイルス感染症に係る水際措置を更新し、ポルトガル入国の際のワクチン接種証明書及び陰性証明書の提示義務を7月1日付で撤廃しました。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月30日時点] SNS24 (国民健康保険サービス) のサイトよりオンラインで取得可能。現在、入国の際 (検問など国境警備があれば、その際も同様) など特別な場合にのみ提示義務あり。
マスク着用義務	[7月30日時点] 閉鎖空間でのマスク着用義務が撤廃されています。ただし高齢者入居施設、医療機関、公共交通機関内での着用義務は継続中です。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月30日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り、もしくは用紙による受け取り可 検査結果は一般のPCRで24~48時間以内の受け取りですが、日、祝祭日はほとんどの検査機関が閉まっています。唯一受検可能な空港内検査場も予約不可で並びます。各検査機関、受付の時間帯、曜日や金額などが流動的のため、その都度再確認をする必要があります。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、ポルトガル本国のみ (アゾレス諸島[Azores Is.]、マデイラ諸島[Madeira Is.]を含む) に観光目的で90日以内の滞在はビザ不要。※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。



リスボン市内
賑わう有名シーフードレストラン店

SPAIN (スペイン)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

バケーションシーズン真っただ中のスペインは、国内外の観光客で観光地はどこも大変な状況です。アジア以外のヨーロッパや北南米からの旅行客は、完全にコロナ前の水準かそれ以上にまで回復しています。公共交通機関でマスク着用義務がある以外、コロナはすっかり過去のものとなりつつある一方、航空会社やホテルにおける人手不足等、観光業界は「ポストコロナ」の問題に直面しています。

日本からの入国情報	[7月28日時点] 「スペイン保健省への事前登録 (QRコード取得)」 + 「証明書 (ワクチン証明・陰性証明・回復証明のいずれか)」で入国が可能です。なお事前登録は、スペイン保健省の専用ページ「 https://www.spth.gov.es/ 」又は専用の無料アプリ「SPAIN TRAVEL HEALTH-SpTH」から、スペイン到着の72時間前より登録可能です。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月28日現在] 入国時EU Digital Covid Certificateを使用。取得方法は居住する州によって異なります。入店時等のワクチン証明・陰性証明の提示義務はありません。
マスク着用義務	[7月28日時点] 公共交通機関や医療機関等を除き、屋外・屋内ともにマスク着用の義務はありません (薬局入店時はマスク着用が義務ですので注意が必要です)。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月28日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 通常、検査結果判明まで24時間ほどかかります (2、3時間で結果の出るエクスプレス検査を除く。またすべての都市でエクスプレス検査が対応可能ではありません)。加えて記入事項の不備も散見されるため、修正の時間も考慮して、PCR検査受診、結果受領には余裕をもったスケジュールをしてください。なお多くの国において入国要件としてのPCR証明提示義務が撤廃されており、需要の減少に伴って、PCR検査場の数が減ってきているため、今後注意が必要です。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意すること。



デボット神殿

SWEDEN (スウェーデン)

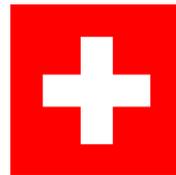


ヨーロッパから現地の声をお届けします！

人々の生活はコロナ以前と変わらず平常に戻っています。ストックホルムのアーランダ空港ではセキュリティーチェックの混雑状況がかなりひどく、空港へ早めに到着することが強く勧められていましたが、不必要に早く到着する乗客により混乱する状況が発生。現在はフライト出発予定時刻3時間前にならないと空港に入場できない、という措置が取られています。

日本からの入国情報	[8月1日時点] 完全開国 スウェーデン入国に関する規制は全撤廃されています。ワクチン証明、コロナ陰性証明、入国前の登録や入国後の隔離などありません。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[8月1日時点] ワクチン接種完了7日以内に国のワクチンデジタル登録されるので、その後ウェブ上でパーソナル番号等を入力して取得する。国内では規制解除の為、使用することはありません。
マスク着用義務	[8月1日時点] 現在は規制解除となっています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[8月1日時点] 手配可否：可、立て替え：不可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 市内ではプライベートクリニックにて日本帰国用の指定フォームでの対応可能な所はありますが、コロナ検査需要自体が減少している為、状況に関しては流動的です。現在は週末も営業、検査当日中に結果判明プランがあります。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意する。

SWITZERLAND (スイス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

6月末からの第6波が、新しい規制がないまま先週にピークを越えて感染者はまた減少傾向に入りました。7月は日本からの個人のお客が増えて、8月からは主催旅行も戻ってくる予定です。

日本からの入国情報	[7月31日時点] 完全開国 入国規制はありません。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月31日時点] 不要です。
マスク着用義務	[7月31日時点] マスク着用義務はありません。(州によって、医療施設はまだマスク着用義務あり)
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月31日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 ●チューリッヒ空港で毎日可能で結果は3時間で出ます。日本指定の書式はメール送信でも結果判明後に空港でもらうことも可能です。テストはフライトの前日に受けることをお勧めしています。●ジュネーブ、ルツェルン、インターラーケンでも日本指定書式の手配が可能です(毎日受付、結果は24時間以内)。●ジュネーブではグループの場合、ホテルでの実施でリクエストベースとなります。●他都市(ルツェルン、インターラーケンなど)でも可能ですが、結果が出るまで一般的に48時間かかるので注意が必要です。●全国のホテルでのPCRテストも可能です。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、あらゆる180日間の期間内で90日以内の観光目的の滞在はビザ不要。 ※滞在可能日数についてはシェンゲン協定加盟国への渡航を参照。他のシェンゲン協定加盟国を訪問する場合、訪問国の無査証滞在の条件にも注意する。リヒテンシュタインはスイスに準ずる。

UNITED KINGDOM (イギリス)



ヨーロッパから現地の声をお届けします！

政府からのコロナに関する発表は1週間に1度のみとなり、最近の感染者数の減少も影響してか、ニュースなどで取り上げられることもめっきり減りました。7月現在、イギリス連邦に属する国や地域が参加して、4年ごとに開催される総合競技大会であるコモンウェルスゲームズがバーミンガムで行われていて、市民は10年前のオリンピック並みのイベントを楽しんでいます。

日本からの入国情報	[7月29日時点] 完全開国 全ての水際措置が撤廃されています。乗客追跡フォーム、ワクチンを完全に接種していない方の出発前検査及び入国後検査も必要が無くなっています。
DCC (ワクチンパス) 取得方法・運用状況	[7月29日時点] ワクチン接種証明書 (NHS COVID Pass) の提示義務はなくなっています。COVIDパスポートに関する政府のガイダンスも終了し、施設側にパスの運用を推奨する事もなくなっています。
マスク着用義務	[7月29日時点] マスク着用は義務ではなくなっています。ただし閉鎖された場所や混雑した場所にいる時、知らない人と会う時には、フェイスカバリングの使用が推奨されています。
日本帰国用PCR検査に関する一般的な注意事項	[7月29日時点] 手配可否：可、立て替え：可、検査結果：メール受け取り可 需要減少によるラボの閉鎖によって、急遽変わる場合があります。 ・検査受検後にお客様のメールアドレスに検査結果が通知される形態になっていますが、メールの容量を超えていて受信に影響が出ること等も発生しており、渡英後でも確実に受信が可能なメールアドレスの登録が必要になります。 ・各国の規制解除によりPCR検査の需要が減ってきており、今後検査機関の減少が予想されます。主要都市であっても、必ずしも便利なロケーションで受検出来るとは限らなくなってくる可能性があります。
日本国籍の査証について	日本国籍の場合、6カ月未満の滞在は原則査証不要。



ピカデリーサーカス エロスの像



ロンドンの中華街